

田原坂

年刊
Tabaruzaka
Vol. 1

馬上ゆたかな
美少年

右手に血刀 左手に手綱

激闘七ヶ月！ 武士VS軍人
西南戦争の真実
田原坂、熊本城、川尻町
熊本市内の戦跡

銃火器、刀剣、軍装再現
資料館秘蔵資料
日赤発祥の地、熊本
博愛精神と医療

© 榎木成香

新しく生きよう。

NEO ONE
KUMAMOTO

西南戦争とは



雨は降る降る じんばは濡れる
越すに越されぬ 田原坂
右手に血刃 左手に手綱
馬上ゆたかな 美少年
山に屍河に血流る
肥薩の天地 秋淋し

西南戦争は明治十年（一八七七）二月十九日に征討の詔が発せられ、同年九月二十四日の鹿児島城山での西郷隆盛の自刃で幕を下ろした。約七か月に及ぶ戦いは、九州の熊本、大分、宮崎、鹿児島、四県にまたがり、政府軍六万人、薩摩軍三万人が動員され、両軍合わせて約一万四千人、特に若者が命を落とした。西南戦争は火力を中心とする本格的な近代戦で、武士と軍人の戦いであった。薩摩の出身者を中心とする剽悍決死の武士と、徴兵によって集められた兵卒や指揮する元武士たる軍人との戦いである。戦いの場面では極めて多くの弾丸

が飛び交い、砲弾も頭上から降り注ぐ。白兵戦では抜刀し、死闘が続く。だが、政府軍は武器、弾薬、食糧などの物資輸送の船舶など多くの面で、次第に薩摩軍を圧倒していった。十年前の明治維新で、世の中は大きく変化した。旧来の価値観が否定され、社会のほとんどの仕組みが変わる中で、支配階級だった武士たちは時代に取り残される形になった。明治新政府の政治や急激な西洋化などをよしとしない人々も多く、諸外国の脅威もある。前途多難な門出であった。新しい国づくりをするうえで、軍隊は不可欠で、避けて通れない大きな難問である。その担い手はどうするのかが、江戸時代には全国各藩に武士がおり、軍事部門を担っていた。それが、明治時代になると近代国家として、軍事は全国統一組織としての軍隊が担うことになった。しかも、その多数は徴兵で武器を持った経験のない者たちが多く、逆に、武士は職を失った。日本最後の内戦、西南戦争は互いに義をかけた戦いであり、そこに官賊は存在しない。明治維新の原動力

の西郷隆盛も大久保利通も、目指すものは同じであったにもかかわらず、西南戦争は日本近代の黎明期における大いなる悲劇である。一つの時代の終わりを告げ、新しい時代の幕開けをも告げた。そして、現在の私たちに多くのことを残し、問いかけている。



▲弾痕の家（復元）、展望デッキ

激戦地田原坂一帯は、今ではツツジや桜が咲き誇る美しい処である。公園と坂道は国史跡に指定され、慰霊塔、資料館などが当時の戦いをしのばせる。

表紙のイラストは、先陣きって敵中に斬り込み、頭部に傷を負いつつも、孤軍奮闘する薩摩軍少年兵をイメージして描いた。（画：榎木成香）

幕末～明治の日本と熊本の動き

- 1852（嘉永 5）
 - ・吉田松陰と宮部鼎蔵、会津の日新館視察
- 1853（嘉永 6）
 - ・米使節ペリー、浦賀に来航
 - ・熊本藩、相模沿岸警備
- 1858（安政 5）
 - ・日米修好通商条約締結
- 1859（安政 6）
 - ・安政の大獄
 - ・吉田松陰（30）ら刑死
- 1862（文久 2）
 - ・松平慶永、政治総裁へ
 - ・横井小楠、顧問として活躍
- 1863（文久 3）
 - ・薩英戦争
- 1864（元治元）
 - ・坂本龍馬、横井小楠を訪ねる
 - ・京都池田屋事件 宮部鼎蔵（45）
 - ・松田重助（35）ら倒れる
 - ・佐久間象山討たれる（54）
 - ・第1次長州征討
 - ・ジュネーヴ条約（スイス人アンリ・デュナン提唱による国際赤十字社同盟結成）
- 1867（慶応 3）
 - ・大政奉還
 - ・王政復古の大号令
- 1868（慶応 4・明治元）
 - ・明治維新 戊辰戦争起こる
- 1869（明治 2）
 - ・横井小楠暗殺（61）
- 1871（明治 4）
 - ・廃藩置県
 - ・熊本洋学校開校
- 1873（明治 6）
 - ・徴兵令公布
 - ・西郷隆盛下野（明治6年政変）
- 1874（明治 7）
 - ・佐賀の乱、台湾出兵
 - ・熊本師範学校開校
- 1875（明治 8）
 - ・植木学校設立（10月廃校）
- 1876（明治 9）
 - ・廃刀令
 - ・神風連の変（10/24）
 - ・秋月の乱、荻の乱（10/27、28）
 - ・県立熊本中学校設立
- 1877（明治 10）
 - ・西南戦争（2月～9月）
 - ・西郷隆盛城山で自決（51）（9/24）
 - ・博愛社創立（日本赤十字社の起こり）
 - ・木戸孝允病死（45）
- 1878（明治 11）
 - ・大久保利通暗殺（49）
 - ・都区町村編成法・府県会規則・地方税規則の新三法公布
- 1887（明治 20）
 - ・第五高等学校開校
- 1889（明治 22）
 - ・大日本帝国憲法制定
 - ・熊本市発足

1 田原坂

西南戦争最大の激戦地



↑明治10年撮影、西南戦争当時の田原坂



↑田原坂で出土した各種の小銃弾

田原坂は江戸時代から五名と熊本を結ぶ幹線道路で、道幅は約4m。熊本城の開放を急ぐ政府軍は大砲や多くの兵卒を運ぶため、田原坂を落とさなければならなかった。薩摩軍は地形を利用して一大陣地を築いて猛攻を加え、最後まで正面突破を許さなかった。死闘は十七昼夜におよび、戦争全体の戦死者約一万四千名の内、およそ四分の一にあたる人々が田原坂の戦いで命を落とした。

2 熊本城

金城湯池 天下の名城



↑熊本城天守閣



↑熊本城で出土した焼け瓦

明治十年二月十九日、謎の出火で城は紅蓮の炎に包まれてしまった。ここから四月までの五十余日間、熊本鎮台司令官谷干城率いる約三千五百人の政府軍兵士等が籠城し、桐野利秋率いる一万数千人の薩摩軍の猛攻から守り抜いた。籠城者には女性たちもいた。城攻めの一たび点段山の丘は激戦地であった。城退却する西郷隆盛は「自分は加藤清正に負けたようなものだ」と語ったという。

3 川尻町

薩摩軍本営・野戦病院



↑川尻薩摩軍本営跡



↑川尻出身の熊本隊、渡邊實時の出征時の幟（個人蔵）

大西郷が本陣と定めた四通八達のと水路の結節点として栄え、物資が豊富な土地であった。元川尻町奉行上田休は戦時下の町の治安を守るため鎮撫隊を組織したが、戦後薩摩軍に与したとして処刑。川尻出身者は政府軍十五名、薩摩軍約五十名であった。戦時には薩摩軍の病院が百十八番まであり、延寿寺は八百余名の薩摩軍兵士を寺領に埋葬し、薩洲墓と称された。

河上彦斎

私が西南戦争を案内しよう。



熊本市出身の攘夷志士。幕末四人斬りの一人で、佐久間象山を斬った。漫画「るろうに剣心」のモデルの一人。剣のみならず和歌の素養も深く、文武に秀でた俊傑で大将の器と言われた。明治四年処刑、三十八歳。

4 健軍神社

薩摩軍と行動を共にするべく結成された、池辺吉十郎、佐々友房らの熊本隊挙兵の地。約千五百名が集結した。

6 北岡・二本木

熊本城総攻撃の際の西郷隆盛本営。北岡神社神官光永大膳宅に置いたが、熊本城から砲撃が集中し、二本木に移動したという。水攻めの堰は北岡神社東側にあった。

7 健軍・保田窪

熊本城から退いた薩摩軍が布陣した、最後の平地戦の舞台である。薩摩軍は政府軍に猛攻を加え、政府軍は一日当たり最大の戦死者を出した。

5 花岡山

眼前に熊本城を見渡すことのできる薩摩軍の砲兵陣地。しかし、花岡山からの砲撃は熊本城本丸には届かず、本病院（現・国立熊本医療センター付近）に着弾した。





西南戦争は西洋式小銃の展示会の様相を示し、政府軍、薩摩軍とも多種多様の銃を使用した。これを契機に国産小銃開発の機運が高まり「村田銃」が生まれた。

こぼれ話『ライフル銃』
「同志が健軍神社に集まった際は、前込めのライフル銃が多く、火縄銃は一人もいなかった。政府軍が元込め銃を持っていたので分捕って使った」
松村さんの親父の話

四斤山砲 (レプリカ)
両軍共に多く使用した。分解して馬2頭で運搬できる。砲弾重量が4kgで、政府軍は二俣台から田原坂一帯をさかんに攻撃した。



ARMS AND EQUIPMENT

兵器 軍装



20ドイム臼砲
20 duim Mortier
全備重量 669kg
最大射程 1,500m

13ドイム携臼砲
13 duim Hand mortar
全備重量 70kg
最大射程 760m

四斤山砲
Canon de 4 rayé montagne
全備重量 218kg
最大射程 2,600m

戊辰戦争で多用されたアームストロング砲は、砲弾径が小さく、破裂弾でもなかったため、城壁は貫通できても決定的なダメージは与えられなかった。そのため西南戦争ではあまり使用されず、爆発力強い四斤砲が用いられた。

携臼砲 移動が簡便で両軍共に使用した。口径で性能を示す。曲射で短い砲弾効力は大きい。



明治8年制陸軍歩兵科尉官軍刀
指揮に使用。柄は水牛角製、鐔には桜唐草模様の透かし細工が施される。



上は洋装、下は草鞋！
薩摩軍の洋式軍装
半マンテル+洋式ズボンは薩摩軍スタイルの一例でござす。腰には兵児帯を締めて刀を差し銃を持ちます。替えの服はありもはん。政府軍の小童どもを撃つたくってやつが！
じやっどん、田原坂はわっつけ寒か！

内衣は西欧シャツを和裁でコピーした襦袢で、腋下にマチを付けた鉄砲袖、腕が動かし易いのは有難てか。外衣は腰下までの半マンテルの筒袖仕立てござす。
赤袴の肥後捲え、引肌付き。刀身二尺、筑後住祐利銘。剣では誰にも負けません。



流行のフェルト帽。雨に打たれ、風に吹かれ、ヨレヨレになってもいい。銃はスペンサー騎兵銃七連発、高価な小銃でござす。銃弾は田原坂調査で出土しもす。
革製の弾薬入れ。内部にはブリキ製の仕切りや弾が中で暴れないよう獣毛がありもす。
実戦では草鞋が一番でござす。雨で緒が切れやすく、戦場近くでは草鞋の値が高くなって困りもした。



ヤタガン式銃剣
上は革鞘歩兵、下は金属鞘(砲兵)のもの。



草鞋・革靴



両軍とも草鞋を履いており、『従軍日記』にも描かれている。草鞋は編上げ式ではなく、ボタン留め仕様になっている。



明治8年制
鎮台下士兵卒略帽
本体羅紗、黄色鉢巻は鎮台兵を示す。鐔は革。内側に「仙台鎮台歩兵第四連隊第一大隊第三中隊遠藤重治」の紙が貼付されている。帽章はレプリカ。



医療博愛

近代ヒューマニズムは
熊本から始まった!!

西南戦争では多くの人が傷つき、命を落とした。土地の人々は政府軍薩摩軍を問わず、戦傷者に自然に手を差し伸べた。しかし、両軍では敵と味方の区別なく負傷者を救護し、治療を施すという考えは簡単には受け入れられなかった。

戦場と化した熊本では、政府軍で佐野常民らによって「博愛社」が設立され、後の日本赤十字社のもとになった。薩摩軍でも八世鳩野宗巴らが、敵味方なく負傷者を治療しようとした。いずれも、当時では先進的で世界標準の行動であった。

ここに日本国内ではじめて、組織的な人道主義にもとづく博愛精神が形をあらわした。近代ヒューマニズムが芽生えた瞬間であり、魂の近代化は熊本が発祥の地なのである。

「戦争で傷ついた者はもはや兵士ではなく、一人の人間である。」

赤十字の父 アンリ・デュナン

明治六年、陸軍衛生部石黒忠恵がドイツ軍医総監エスマルヒの三角包帯法を基に作ったものである。使用方法が描かれ、軍医や衛生下士官がいなくても兵卒自ら初期治療ができる装備とした。ただし、本品は訓練用で、装備品には無地が用いられた。

明治六年陸軍本病院 三角巾

(右) 銅版印刷 部分
(左) 博愛社で治療を受けた後、再起を伺う薩摩軍少年兵 (イメージ)



19世紀後半の世界

西南戦争戦場逸話

警視隊巡査の気魄

四月六日、植木荻迫の戦いにて。鼻の半ばから上あごを銃弾に打ち抜かれ、わずかに下あごが残るのみ。話すこともできなかつたが、巡査は血刀をさげて自らの足で、小包帯所まで歩いてきた。その姿を見た人は皆驚いた。

『従軍日記』

飴は飴屋、豆腐は豆腐屋

籠城中は、食糧難に喘いでいた。特に病人に食べさせるものがなかった。鎮台には兵士が大勢いるものだから、何か彼らを養えるものを作れる者はいないか、という話を持ち上がった。豆腐屋の倅がいたので、城下から道具を持ってきて豆腐を作らせた。飴屋の倅もいたので飴菓子を作らせて、病人たちを慰めた。

『熊本籠城談』

医者はおれども…

籠城中の四月、医者は薬品不足に悩んでいた。外用薬は多少の残りがあるものの、内服薬は足りない。医者がいて

厳しい戦いだった…



も薬がなければ治療ができない。はじめは包帯などが少し、でも血で汚れば捨てていたが、洗って繰り返し使用することにした。

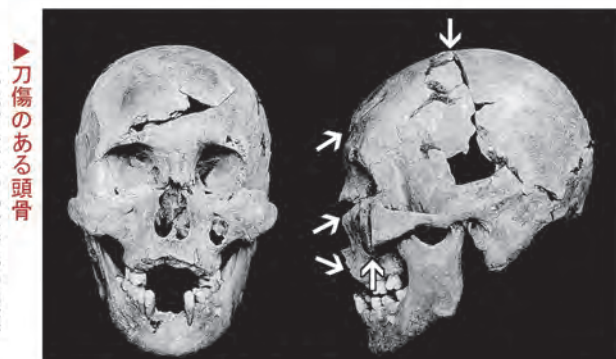
『征西従軍日記』

城山の惨殺・病院襲撃

九月二十四日朝、鹿児島島の病院に新撰旅団の兵が突入してきた。名前をゆきという二人の看護婦が働いていた。一人が「ここは重症患者ばかりで、起居が自由にならない者だけだ。命だけは助けてください」と訴えたが、官兵はそれを聞かず、直ちに一人の患者を刺殺し、他の患者も殺してしまつた。そして、建物に火を放った。

『薩南血涙史』

※本冊子では紙数の都合上、引用参考文献の一部を割愛しました。ご了承ください。



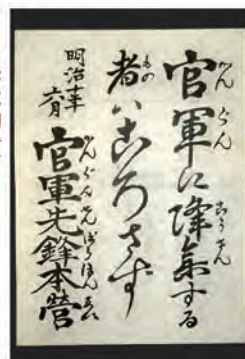
『八代市報16集 若宮官軍墓地跡・横手官軍墓地跡』

刀傷のある頭骨

八代市横手官軍墓地の埋葬人骨で、矢印は損傷部。日本刀による斬痕とみられ、全身に9か所ある。警視隊所属の人物だろう。

降伏勧告ビラ

官軍に降参する者ハ古ろさす
赤十字思想の博愛精神により穏やかな表現となつた。



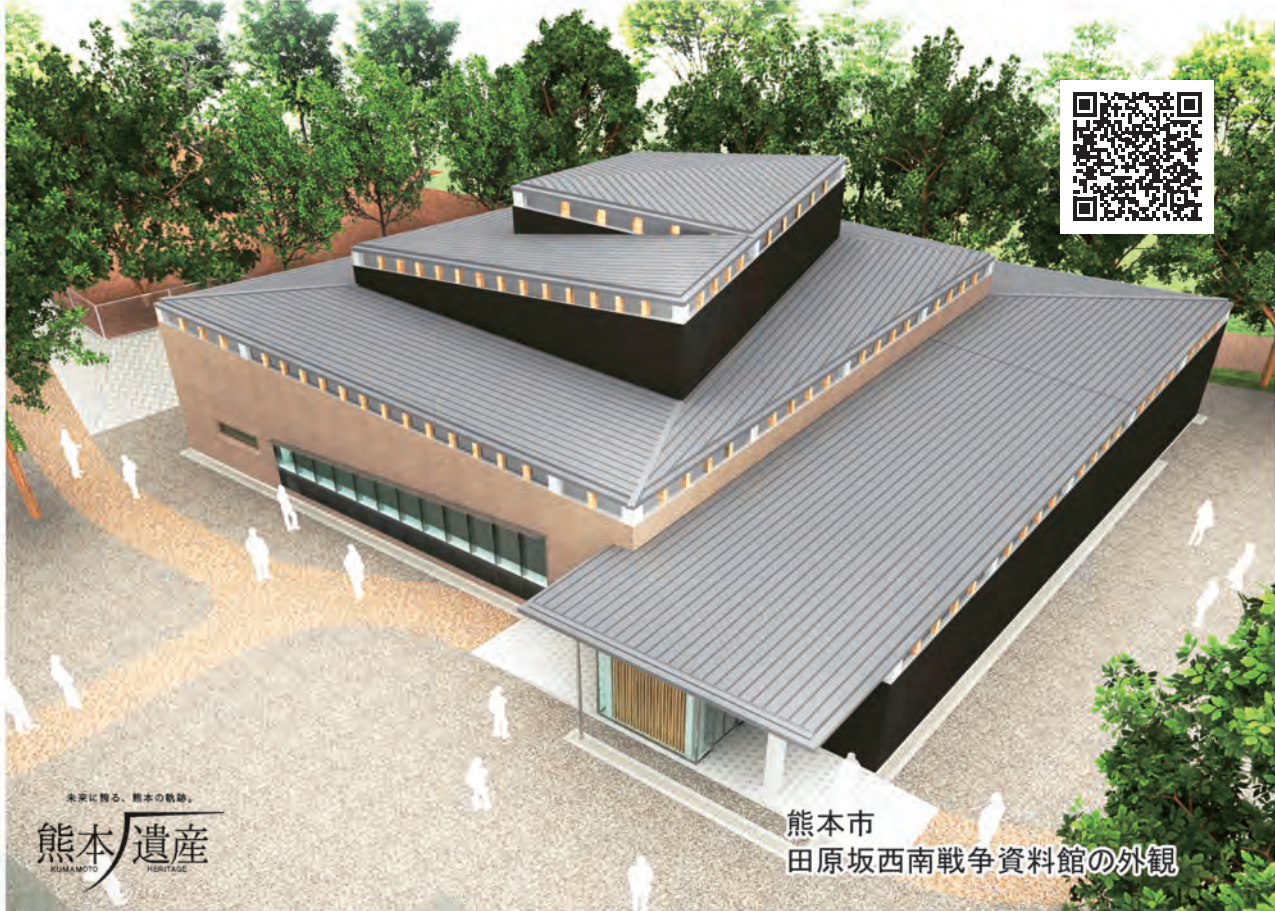
備急消毒表

明治九年四月発行。毒物を飲んだ時の処置や消毒薬を表にしたものである。発行者の高橋正純は熊本出身。大阪慈恵病院を建て、貧窮の人々を救った。



外科通術・外科説約

石黒忠恵(第五代陸軍軍医総監)著『外科説約』明治六年、『外科通術』明治十年。外科論、外科手術についての概説書。



未来に繋る。熊本の軌跡。
熊本遺産
KUMAMOTO HERITAGE

熊本市
田原坂西南戦争資料館の外観

近代日本の夜明けを学び伝える歴史学習施設として開館しました。
床面積は旧館の約2倍で、実物展示やジオラマ、映像などが充実しています。

利用案内

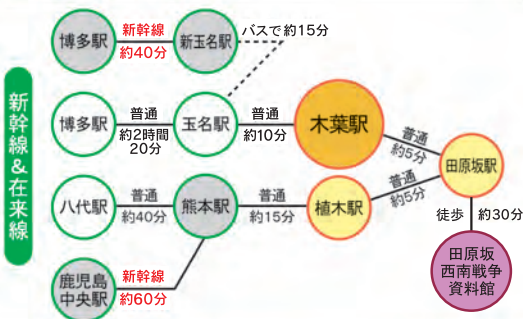
- 開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで) ■ 休館日 12月29日から翌年1月3日まで
- 入館料 一般(高校生以上) 個人300円 団体(20名以上) 240円
小・中学生 個人100円 団体(20名以上) 80円

ただし乳幼児、障害者手帳をお持ちの方、熊本市・鹿児島市・福岡市・北九州市に居住する65歳以上の方(証明できるものを提示)と同市内の小・中学生(名札か生徒手帳提示)等の入場は無料です。

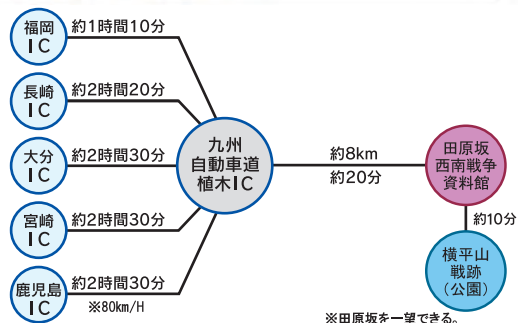
交通案内

2022年7月訂正

JRをご利用の場合



自動車をご利用の場合



※田原坂を一望できる。

お問い合わせ

熊本市文化財課植木分室

〒861-0195 熊本市北区植木町岩野238番地1
☎ 096-272-0551

熊本市田原坂西南戦争資料館

〒861-0163 熊本市北区植木町豊岡858番地1
☎ 096-272-4982

